

【現代舞踊第一部 講評】

■今年は特に感じた点は上半身の美でした。テクニックは皆さんたくさん表現出来ていますが、下半身は衣裳でごまかせても、背中や首のライン等、是非美しく見える様レッスンしてほしいと思います

■・テクニックのレベルは大変高い。しかし同じような動きなので規定でもあるのかと感ずるほど。

・ダンサーとしての肉体訓練をどのようにしているのか気になった。

普段の基礎レッスンと作品で使う動きの訓練は違ってくるはずですよ。

・その作品ならではの動きを見つけ、その世界に身を捧げることが大事。

・何かにつけて顔を客席に向かって見せる人がいるが、見せるのではなく、その時間と空間を生きてほしい。

・もっともっと踊りを好きになって下さい。

■皆さん正直いって、多少のレベルの差はありましたが、それぞれに工夫や個性が見え、現代舞踊というジャンルの幅の広さ、奥の深さを感じさせて興味深いものがありました。

これからは、さらに何を表現したいのか、それが作品タイトルにどうかかわるのかをつきつめながら、身体のコントロールと表現に精進して下さい。また人間として、現代における生活者として、という視点も忘れずに。

■基本を大切に踊れば、動きの幅が広がり自信を持って表現できると思います。

テーマに沿った振り、音楽、衣裳、構成等、総合的に創作してほしいと思いま

す。繊細な腕の動きを研究して下さい。

日々の基本レッスンを大切に感性を磨き、オリジナリティーある作品を期待しています。又、明日から前向きに頑張ってください。年々ダンスも多様化してま
すが流されず、自分自身を信じて挑戦して下さい。

■おつかれさまでした。皆さんとても良く身体が動いていましたが、その作品独自の表現になっていなければ意味がありません。

また、絶対にこのテクニックを入れなくてはならない！！という決まりもないですから、思いきって余分な事はせずに、引き算の考え方で4分を有効に使って下さい。

必要な動きだけを確実に！動きすぎて損をする場合があるので気をつけて下さい。

■全体的に正面性を強調する為、正面をにらめ付けるのが多い。舞台の空間をどのように使うか、一面的に使い、舞台全体の空気を振わすような作品が少ない。

身体能力の可能性を追求するあまり、空間に置かれた個の身体が舞台空間を忘れたかのように一人歩きし、振の連続がクライマックスを作るかのような錯覚が感じられる。

作品は舞台空間と、置かれた個の身体とのバランスの上で成り立つことをもう一度確かめてはと思う。

■テクニックはあり、身体能力が高いと言っても、それを作品を表現するために使わなくては“踊り”として成立しない。動きを並べて、音楽に合わせて踊るだけ

のように見えてしまうものもあり、もったいない。

「何を踊るのか」しっかり自分の表現の軸を持って踊ってほしい。

同じような動きが多く、あと個性的な作品が見たいと思った。

冷静さと情熱の両方をバランスよく持ち、踊ることが大事。そして「心」がなければ感動のある踊りにはならない。

■テーマの視点をしっかり伝え、ダンスの表現が舞台を満たす作品。

存在感・独自性・感性の抽出は楽しく作品を見せてくれます。

緊張や共感を感じると、とても嬉しくなります。

■多様な発想のもと、それぞれの作品に独自性があり、創作への意欲が伝わりました。

今後はテーマと表現の関係をより明確にし、音楽との関係性を大切に。

そして動きと表現がパターン化しないようにすることで、表現の説得力がより深まっていくのではないのでしょうか。

ダンスは続けることも大切です。今後の皆さんのご活躍に期待します。

■本年も質の高い激戦となりました。身体能力の向上の先に現れる独自性のある方が優位でした。

優秀な肉体を駆使して新たな表現方法を開拓する一方で生身の人間が放つエネルギーを観るものに如何に届けるかを研究することが大切かと感じます。他に類を見ぬ芸術舞踊の担い手の皆さんが更なる高みを目指されますようお願いしております。